

取り組み名 どんと晴れ!自転車、徒歩、公共交通。“減クルマ”でまちづくり

クルマよりも、自転車が似合う街。

マイカー利用を自転車や公共交通機関にシフト。
街ぐるみの“減クルマ”活動で、CO₂削減。



盛岡市では市民団体が主体となり、商店街、行政、交通事業者、交通専門家などで構成する実行委員会を組織。「減クルマ」をキャッチフレーズに掲げ、自動車の利用量削減に向けた活動に取り組んでいます。ねらいは、クルマ利用の抑制によりCO₂排出量を減らし、都市の環境を改善するとともに、環境負荷の少ないアクセス手段を確保し、地域の活性化につなげることです。2006年には、「減クルマ」をテーマにワークショップとフォーラムを開催し、これからの盛岡の交通のあるべき姿を話し合い、方向性をとりまとめました。2007年には、国土交通省の制度を活用し、自転車利用の推進を目指した「エコ交通」への転換を促すための社会実験に取り組み始めました。

団体名: “減クルマ”でまちづくり実行委員会
所在地: 岩手県盛岡市下ノ橋町
ウェブサイト: <http://www.u-keikaku.com/kawa>

都道府県大会の名称

CO₂ダイエット・マイナス8% 第1回エコ8カップ



「“減クルマ”でまちづくり市民大会パレード」では、徒歩、人力車、自転車、ペロタクシー、馬車、自転車積載タクシー、低床バスが登場した。



クルマの利用を減らして自転車の利用を促進するため、パーキングチケットを駐輪場に転換。

取り組み名 菜の花かおる元気なふるさと秋田をつくろう

菜の花で、畑も地球も元気にしたい。

休耕地に菜の花を。食べて、絞って、
いろいろ使えて、バイオ燃料にもなる。



秋田県菜の花ネットワークには、農家や運送会社、行政、大学教授などが参加。菜の花を使った食用油、料理、飼料、肥料、BDF（バイオディーゼル燃料）、グリセリン燃料などを研究しています。県内菜の花作付面積は、転作作物として作付けが広がり、2006年の80haから1年で約120haまでに拡大し、遊休地、耕作放棄地、休耕地を対象に地元農家の菜の花栽培に協力しています。菜の花の連作障害対策として、3年に1年はソバを植える「天ぷらそば」構想などもあります。搾油した菜種油は小坂町、美郷町、県立大学、県内スーパー（予定）等で販売しています。BDF製造工程で発生するグリセリンも、ハウス農家の燃料に有効活用しています。

団体名: 秋田菜の花ネットワーク
ウェブサイト: http://www.akita-pu.ac.jp/stic/syokai_02.htm
http://www.akita-pu.ac.jp/newsitem2.htm?serial_no=96

都道府県大会の名称

おらほの、CO₂ダイエット作戦!!



活動を紹介するため、菜の花をテーマにしたイベントを開催。BDFなどを展示した。



満開の菜の花は地域で名所となり、たくさんの人が畑を訪れるようになった。